

主題：キリストを経験し、享受し、表現する

メッセージ 60

啓示録において (9)

もうひとりの御使いと永遠の王

聖書：啓 8:3-5. 11:15. 12:10

- I. 啓示録第8章3節から5節において、キリストはもうひとりの御使いとして提示されており、大祭司として、彼の聖徒たちの祈りをもって、供給する方法で地上に対して神の行政を執行します：
- A. キリストは「もうひとりの御使い」と呼ばれています。なぜなら、彼は神によって遣わされた者の地位に立っているからです。啓示録において、彼は「もうひとりの御使い」と呼ばれており、唯一の、特別な御使いです。なぜなら、彼は神によって遣わされて神のエコノミーを遂行する方であるからです—— 7:2. 8:3. 10:1, 5, 9. 18:1 :
1. 神の御使いとしてのキリストは全宇宙を支配し、他の御使いたちを方向づけて、地上で神の裁きを遂行させます—— 7:2-3。
 2. 第 10 章 1 節から 2 節において、キリストはもうひとりの御使いとして来て、海と陸を所有します：
 - a. 彼が一方の足を海の上に、他方の足を陸の上に置くことは、彼が来て全地を所有することを表徴します—— 2 節後半。
 - b. 地と海は神の敵によって強奪されてきましたが、ある日キリストはもはやこの強奪を容認できなくなり、来てご自身の正当な嗣業を主張します—— 詩 2:8. 24:1。
 3. キリストはもう一人の御使いとしての彼の働きにおいて、来て大いなるバビロンに対する神の裁きを宣言し、栄光の中で現れて全地を神の王国とします—— 啓 18:1. 11:15。
- B. 第 8 章 3 節から 5 節において、もうひとりの御使いとしてのキリストは、大祭司として彼の聖徒たちの祈りをもって神を供給することによって、地に対して神の行政を執行します。
1. ここでキリストはもうひとりの御使いとして啓示されており、召会の祈りを神にささげ、これらの祈りに対する答えを遂行します—— 3-5 節。
 2. キリストは聖徒たちの祈りを神にささげ、ご自身を香として祈りに加え、神から答えを受け、地上に答えを注ぎ出します。
 3. 香壇はキリストのパーソンの予表です。香壇は祈るキリスト、とりなすキリストを表徴します。
 4. 香壇（金の香壇）は神の行政の執行の中心です。こういうわけで、キリストのとりなす生活、彼の祈りの生活は、宇宙における神の活動の中心です—— 3 節。

5. 金の香炉は聖徒たちの祈りを表徴します (5:8)。また香はキリストと彼のすべての功績を表徴し、聖徒たちの祈りに加えられます。それは、聖徒たちの祈りが金の香壇の上で神に受け入れられるためです—— 8:3。
 - a. これはわたしたちの祈りが香としての神を伴わなければならないことを示します。
 - b. キリストは香であり、それによってわたしたちの祈りは受け入れられ、聞かれ、成就します—— 5:8。
6. 聖徒たちの祈りがキリストの香と共に神に上るとき、神はご自身の行政を遂行します—— 8:5 :
 - a. 神の行政は聖徒たちの祈りを必要とします。聖徒たちの祈りはキリストの天の務めに対する彼らの応答です——コロサイ 3:1-2. 4:2-3. ヘブル 8:1。
 - b. わたしたちが祈るとき、彼は行政を執行します。また彼が行政を執行するとき、わたしたちは祈ります。
 - c. キリストはまずわたしたちの祈りを神にささげ、それから神の答えを注ぎ出します。
 - d. わたしたちの祈りに対して神の答えを注ぎ出すことは、神の宇宙的な行政に等しいのです——啓 8:5。

II. 啓示録第11章15節と第12章10節は、わたしたちがキリストを永遠の王として経験し、享受することができることを示しています :

- A. 神が地を裁いた後、地は神によって占有され、神に戻ります。そして、キリストは地上における彼の王国において永遠にわたって王として支配します—— 11:15-18。
- B. 今日、地はサタンの支配の下にある世の王国ですが、主が王として全地を回復する日が来つつあります——詩 2:8。
- C. キリストだけが地の正当な所有者です。彼は十字架上で代価を払って地を買いました。それは、ある日、王国が地上に設立されるためであり、彼が戻って来て地を所有するためです—— 24:1. マタイ 13:44. 啓 10:1-2。
- D. 主の今日の願いは、彼の王国をわたしたちの中に立てることです。クリスチャンであることは、単に恵みや享受の事柄だけでなく、またわたしたちを支配し、わたしたちを彼の王国で構成し、彼の御座をわたしたちの中に立て、彼のみこころをわたしたちの中で遂行する権威をキリストに得ていただく事柄です——ローマ 14:17. マタイ 5:3. 7:21。
- E. 主イエスは、王国が来るために祈るようにとわたしたちに教えました—— 6:10 :
 1. 主の祈りは、王国が地上と全宇宙において無限に拡大するためです。
 2. 神の民の真の祈りは、彼の王国のためです :
 - a. わたしたちは多くのものために祈るかもしれませんが、その究極的な目標が神の王国のためでないなら、それらの祈りは神の御前で何の価値もありません—— 10 節, 31-33。
 - b. 王国が来ることは、わたしたちの祈りと絶対に関係があります。
- F. 王国が来るために祈ることに加えて、わたしたちは王国が来るために戦う必要が

あります—— 12:28. 啓 12:5, 7-12 :

1. 霊的な戦いを必要とするのは、サタンの意志が神の意志に反対しているからです——創 3:15. イザヤ 14:12-14. マタイ 6:10. 7:21 :
 - a. 霊的な戦いの原因は、神聖な意志とサタンの意志との間の争いにあります。
 - b. 神は被造物である「人」が、墮落した被造物である「サタン」を対処することを願っています。このために、人の意志は神聖な意志と共に立たなければなりません——創 1:26. マタイ 26:39. 12:30. 7:21。
 - c. 召会としてのわたしたちの戦いは、サタンの意志を従わせ、神の敵を打ち破るためです——啓 12:11。
2. 霊的な戦いの目的は、神の王国をもたらして、サタンに地上で損失を被らせ、神が地を回復することができるようにすることです——創 1:26 :
 - a. 霊的な戦いは、神の王国とサタンの王国との間の戦いです——マタイ 12:26, 28。
 - b. 神の王国は、神聖な意志を活用することであり、神の力をもってサタンの力を覆すことです—— 6:10. 12:28。
 - c. 召会は祈りを通して、神の王国の力を地上で解かなければなりません—— 6:9-10, 13. 18:19. 啓 8:3-5。